

World Tea Party Yokohama-Vancouver から

大 榎 淳

2009年の春から2010年夏にかけて、東京経済大学の国外研究員派遣プログラムにより、カナダ・バンクーバーのアートセンター・センターA（Centre A）における、アーティストインレジデンスに参加することができました。その際、冬季オリンピック期間に向けて計画中であったアートイベント World Tea Party（WTP）へ参加するという機会に恵まれました。WTPは、観客がお茶を楽しみながら相互に交流するアートイベントで、バンクーバー在住のアーティスト Bryan Mulvihill が中心となってスタートしました。これまでも、ベネチアビエンナーレなど、世界各地で開催されています。今回のパーティーは、2010 Cultural Olympiad の公式プログラムで、同時に、冬季オリンピック期間中に、地域のギャラリーが共同開催するライトアップイベント Bright Light の一環でもありました。

Centre A は、アジアの現代美術を紹介するアートセンターとして、バンクーバーの観光名所ギヤスタウンとチャイナタウンに挟まれたスラム街、ヘイスティングス通りに面した一角にスペースを構えています。このため、今回のイベントは、オリンピック期間中であって、観光客にお茶のサービスを行なうと同時に、多くの人々とスラム街とを出合わせる結果になりました。これは、アーティストでもある Centre A の初代ディレクター Hank Bull が得意とする、ローカルとグローバルな関係を相互に影響させ合う表現スタイルを継承したものでした。

私に期待されたのは、インターネットを介して、海外へもパーティーの輪を広げることでした。そこで、姉妹都市でもある横浜市に注目し、バンクーバーとの間でネットワークイベントを開催することを提案しました。これが、WTP Yokohama-Vancouver です。この2つの街は、大きな中華街に代表される多様な人々の共存があり、イエールタウンやみなとみらいのように大規模な再開発地区を持ち、また、Centre A の建つダウントウンイーストサイド（DTES）や寿町のように、ホームレスやデリーワーカーの集まるエリアといったように、相互に対応する特徴を備えています。WTP Yokohama-Vancouver では、ティーパーティーの輪を広げながら、オリンピックを機会に集まった各国の観客に向け、横浜の街に関わりながら活動している芸術とメディアの運動を紹介し、両都市のアーティストや文化活動の交流を促進させることが出来ると考えました。

World Tea Party Yokohama-Vancouver から

イベントは、日本時間で2010年2月21日（日）の昼、バンクーバー時間では、冬季オリンピック期間の折り返し点である2月20日（土）の夜7時に開かれました。時差の点から、双方の都市においても好都合な時間帯であり、何より、大通りに面したCentre Aの巨大な窓を利用したプロジェクション（プロジェクターを利用した屋外投影）にとって、夜の時間帯を外せないという理由もありました。

プロジェクションに登場するのは、横浜における芸術・メディア活動の拠点を結んだSkypeの映像と、予め用意した幾つかの資料映像でした。とくに、黄金町エリアマネジメントセンターから提供を受けたChris Chong Chan Fuiの「HEAVENHELL 短縮版」（ヨコハマ国際映像祭2009公開作品）は、会場にいた人々の注目を集めました。また、横浜の赤レンガ地区において、SIX SQUARE BRIDGEがサウンドと映像を伴ったティーパーティを同時開催し、これもまた、SkypeとUstreamによって中継されました。もちろん、Centre AからもUstreamで同時中継を行いました。

バンクーバー側では、Centre AとWTPの関係者に加え、このDTESを拠点に、社会的な視点でメディアとアートの活動を展開しているAHA Mediaのみなさんが参加をしてくれました。一方、横浜からは、ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター（YCC）をはじめ、寿町や黄金町で活動している複数のグループに参加を呼びかけました。

ただし、WTPのイベントもまた、交流の中継点です。そもそも、私のアーティストインレジデンスの目的は、バンクーバーの芸術活動が、社会の中でどのように機能しているのかを知り、それを体験することにあります。まさに、WTPへの参加が、それを可能にしてくれました。多くの問題をはらみながら、オリンピックへ向かって変化する街を取材して、その情報をブログで横浜側へ伝える試みも行ないました。これには、Centre Aに集っていた、アーティストや建築家も、協同して活動してくれました。

さらに、冬季オリンピック期間の後、2010年の6月末には、日本のホームレス・スラム地域を紹介するイベントとして、「山谷やられたらやりかえせ（佐藤満夫/山岡強一）」と「新宿路上TV（Dropout TV/遠藤大輔）」の2作品の上映会をCentre Aにおいて企画・開催しました。この際には、上映作品のプロデューサーであるビデオジャーナリストの遠藤大輔がバンクーバーを訪れ、制作の背景を解説してくれました。次いで、同年10月末には、横浜のドヤ街、寿町で活動している「KOTOBUKI クリエイティブアクション」のメンバー——河本一満（横浜市職員）、曾我部昌史（建築家神奈川大学教員）、神奈川大学曾我部研究室、丸山美紀（建築家）、山本薫子（社会学首都大学東京教員）——とともに、このDTESの住宅

事情を調査することになり、バンクーバー市の協力を得て実現させることができました。「KOTOBUKI クリエイティブアクション」との活動は、さらに、各国のスラムを訪問するという計画にも発展しています。

World Tea Party Yokohama-Vancouver から転がり出た動きは、新たな方向に広がっています。これは、そのとりあえずの報告としてのビデオによる記録です。冬季オリンピック前後のバンクーバー、アジアンアートセンター Centre A、スラム街 DTES 地区で収録したこれらのビデオをランダムに視聴することで、この地域の動きと、一連の活動の関係が、浮かび上がるのではないかと期待しています。なお、データは、過去のアートイベントの記録とともに収録しています。小さく、そして簡易な電子メディアによるコミュニケーションの記録としてもご覧下さい。

●バンクーバー側参加グループと関連リンク

Centre A

<http://www.centrea.org/>

World Tea Party

<http://www.worldteaparty.com/>

Bright Light

<http://bright-light.ca/home>

AHA Media

<http://ahamedia.ca/>

●横浜側参加グループ

ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター (YCC)

<http://www.yaf.or.jp/ycc/>

BankART

<http://www.bankart1929.com/>

コジマラジオ (BankART からの中継を担当)

<http://yaplog.jp/kojimaradio/>

World Tea Party Yokohama-Vancouver から

KOTOBUKI クリエイティブアクション

<http://creativeaction.jp/>

ヨコハマホステルビレッジ

<http://yokohama.hostelvillage.com/>

野毛 Hana*Hana

<http://www.noge-hanahana.org/>

黄金町エリアマネジメントセンター

<http://www.koganecho.net/>

SIX SQUARE BRIDGE

<http://www.sixsquarebridge.com/>

※ 付録 DVD のデータは、Internet Explorer や Firefox などのウェブブラウザで再生できます。ムービーやサウンドデータの視聴には、JavaScript や Adobe Flash Player などの機能が必要です。通常、これらの機能は有効になっている場合がほとんどですが、もし、ウェブブラウザからの要求があった場合には、その指示に従って、各種の設定を行った上で視聴してください。また、一部のムービーデータの視聴には、RealPlayer と QuickTime Player を使います。ページ内にリンクを設定していますので、必要に応じてインストールをお願いします。

アートイベント「World Tea Party Yokohama-Vancouver」への参加は、2009年から2010年にかけて行われた東京経済大学海外研究員のプログラムにより実現したものです。